

教科	国語	科目	論理国語	単位数	4	学年（コース）	3学年（国際文化科）
使用教科書	第一学習社『高等学校 論理国語』						
副教材等	第一学習社『新訂7版新訂総合国語便覧』、いっずな書店『新現代文単語』、尚文出版『核心漢字2500＋語彙1000』、東京書籍『文学国語セレクション』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることを目指します。 ・他者との関わりの中で、論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養うことを目指します。 ・言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどがある。言葉がもつ価値への認識を深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
---	---	---

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	評論（七）	2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	人間という中心と、それよりも（軽い命）（金森修）	・具体（例示）と抽象（意見）の関係を整理して論理構成を把握し、筆者の述べる人間観を理解する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握する。	6	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
		2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	言語が見せる世界（野矢茂樹）	・言語と認識の関係について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にするはたらきがあることを理解する。	6	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
5	評論（八）	2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	身体の個性（浜田寿美男）	・ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。 ・人間は本源的な自己中心性にとらわれているという筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	6	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート

		2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	いのちのかたち (西谷修)	・主張に説得力を持たせるための論展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	6	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート
6 7	小論文を書く	3 「A 書くこと」 1 「B 読むこと」	課題の文章を読んで情報を整理する	・課題文の論旨と主題を読み取る方法を理解する。 ・課題文を要約する方法を理解する。	4	授業態度 発問評価 要約文の提出 ワークシート
		4 「A 書くこと」	得られた情報を分析して自分の考えを決める	・課題文から得た情報と設問の指示とをふまえて、自分の考えを決める方法を理解する。 ・主張を支える根拠をあげる方法を理解する。	4	授業態度 発問評価 発表・報告 ワークシート
		4「A 書くこと」	構成を考えて小論文を書く	・論理的な文章を書くための文章構成のしかたを理解する。 ・文章の構成や展開、表現のしかたなどについて、自分の考えが的確に伝わるように工夫する。	4	授業態度 発問評価 小論文の提出 ワークシート
		3 「A 書くこと」 1 「B 読むこと」	書いた小論文を評価・分析して修正する	・自分の考えが的確に伝わるように書かれているか、読み手の評価も参考にして文章を吟味し、書き直す。 ・書いた小論文を相互評価し、批評を踏まえて粘り強く修正しようとしている。	4	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 修正した小論文の提出 ワークシート
8 9	評論 (九)	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	リスク社会とは何か (大澤真幸)	・リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	8	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
		2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	コスモポリタニズムの可能性 (河野哲也)	・「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。 ・グローバル化する社会での生き方について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	8	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート

10	読み比べ ジェンダー	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	ジェンダー化された身体の行方 (川本玲子)	・社会的な話題について書かれた論説文を読み、その内容を基に自分の考えをまとめる。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
		2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	ヒトの進化と現代社会 (長谷川眞理子)	・文章に関連した題材について、さまざまな観点から自分の考えを論述したり発表したりする。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
11	評論 (十)	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	目に見える制度と見えない制度 (中村雄二郎)	・筆者の論展開を支える文章表現上の工夫を理解して主張を捉え、身の回りの制度について考える。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート
		2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	「である」ことと「する」こと (丸山真男)	・具体例と主張との関係、段落相互の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート
12	評論 (十一)	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	漫罵 (北村透谷)	・明治期の論説文における文語文体に触れ、時代背景をふまえながら筆者が主張する内容を理解する。 ・積極的に明治期の文語文の漢文訓読体の特徴を理解しようとしている。	8	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 定期考査 ワークシート
		2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	現代日本の開化 (夏目漱石)	・一般の開化と日本の開化との違いを整理しながら筆者の主張を捉え、自分に照らして考えを深める。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート
1	読み比べ イノベーション	2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	ローカル鉄道の改革と地域振興 (鳥塚亮)	・イノベーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 ・社会的な話題について書かれた論説文を読み、その内容を基に自分の考えをまとめる。	6	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート

		2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	重装備農業からの脱却（藤原辰史）	・イノベーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 ・文章に関連した題材について、さまざまな観点から自分の考えを論述したり発表したりする。	6	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 定期考査 ワークシート
2 3	実用文（二）	2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	日本の雇用形態に関わる文章と資料を読み比べる	・非正規雇用に関する文章と資料から必要な情報を読み取り、複数の情報を関連づけて問題点をまとめる。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。	6	授業態度 発問評価 ワークシート
		2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	生徒会に提出する提案書の内容を検討する	・文章の構成や表現のしかたについて、多面的・多角的な視点から評価する。 ・自分の考えが的確に伝わる文章になるように、表現のしかたを工夫する。	6	授業態度 発問評価 発表・報告 ワークシート

計 128 時間（55 分授業）

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 46 時間	B「読むこと」 82 時間
-----------------	------------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週の小テストがあります。テスト範囲は、前週に指示します。基本的に副教材から出題します。
- ・单元ごとに、ワークシートを提出してもらいます。文章の理解度を確認します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。（課題考査の出題範囲や指定図書のリポートなど）

8 担当者からの一言

「論理国語」は論理的・批判的に考える力をつけることによって、創造的に考えることができるようになることを目指しています。そのために、言葉の意味・用法を正しく理解し、正確に論旨を捉えるとともに、多面的な見方によって、新たなものの見方・考え方を身につけましょう。
(担当：外山 正史)

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	学年（コース）	3学年（情報科学科）
使用教科書	第一学習社『高等学校 論理国語』						
副教材等	第一学習社『新訂7版新訂総合国語便覧』、いっずな書店『新現代文単語』、尚文出版『核心漢字2500＋語彙1000』、東京書籍『文学国語セレクション』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることを目指します。 ・他者との関わりの中で、論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養うことを目指します。 ・言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどがある。言葉がもつ価値への認識を深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
---	---	---

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	評論（七）	2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	人間という中心と、それよりも（軽い命）（金森修）	・具体（例示）と抽象（意見）の関係を整理して論理構成を把握し、筆者の述べる人間観を理解する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する。	6	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
5	評論（八）	2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	身体の個性（浜田寿美男）	・ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。 ・人間は本源的な自己中心性にとらわれているという筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	6	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート
6	小論文を書く	2 「A 書くこと」 1 「B 読むこと」	課題の文章を読んで情報を整理する	・課題文の論旨と主題を読み取る方法を理解する。 ・課題文を要約する方法を理解する。	3	授業態度 発問評価 要約文の提出 ワークシート

		2 「A 書くこと」	得られた情報を分析して自分の考えを決める	・課題文から得た情報と設問の指示とをふまえて、自分の考えを決める方法を理解する。 ・主張を支える根拠をあげる方法を理解する。	2	授業態度 発問評価 発表・報告 ワークシート
7		3 「A 書くこと」	構成を考えて小論文を書く	・論理的な文章を書くための文章構成のしかたを理解する。 ・文章の構成や展開、表現のしかたなどについて、自分の考えが的確に伝わるように工夫する。	3	授業態度 発問評価 小論文の提出 ワークシート
		2 「A 書くこと」 1 「B 読むこと」	書いた小論文を評価・分析して修正する	・自分の考えが的確に伝わるように書かれているか、読み手の評価も参考にして文章を吟味し、書き直す。 ・書いた小論文を相互評価し、批評を踏まえて粘り強く修正しようとしている。	3	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 修正した小論文の提出 ワークシート
8 9	評論（九）	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	リスク社会とは何か（大澤真幸）	・リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	8	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
10	読み比べ ジェンダー	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	ジェンダー化された身体が行方（川本玲子）	・社会的な話題について書かれた論説文を読み、その内容を基に自分の考えをまとめる。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
11	評論（十）	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	「である」ことと「する」こと（丸山真男）	・具体例と主張との関係、段落相互の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート
12	評論（十一）	2 「A 書くこと」 6 「B 読むこと」	現代日本の開化（夏目漱石）	・一般の開化と日本の開化との違いを整理しながら筆者の主張を捉え、自分に照らして考えを深める。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。	8	授業態度 発問評価 指名音読 定期考査 ワークシート

1	読み比べ イノベーション	2 「A 書くこと」 4 「B 読むこと」	ローカル鉄道の 改革と地域振興 (鳥塚亮)	・イノベーションをテーマとした文章 を読み比べ、書き手の立場や目的を考 えながら内容を解釈し、両者を比較し ながら考えをまとめる。 ・社会的な話題について書かれた論説 文を読み、その内容を基に自分の考え をまとめる。	6	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 定期考査 ワークシート
2 3	実用文 (二)	3 「B 読むこと」	日本の雇用形態 に関わる文章と 資料を読み比べ る	・非正規雇用に関する文章と資料から 必要な情報を読み取り、複数の情報を 関連づけて問題点をまとめる。 ・関連する文章を比較して読み、書き 手の立場や目的を考えながら内容を解 釈する。	3	授業態度 発問評価 ワークシート

計 64 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 23 時間	B「読むこと」 41 時間
-----------------	------------------	------------------

7 課題・提出物等

- ・毎週の小テストがあります。テスト範囲は、前週に指示します。基本的に副教材から出題します。
- ・单元ごとに、ワークシートを提出してもらいます。文章の理解度を確認します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(課題考査の出題範囲や指定図書のレポートなど)

8 担当者からの一言

「論理国語」は論理的・批判的に考える力をつけることによって、創造的に考えることができるようになることを目指しています。そのために、言葉の意味・用法を正しく理解し、正確に論旨を捉えるとともに、多面的な見方によって、新たなものの見方・考え方を身につけましょう。
(担当：外山 正史)

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3単位	学年（コース）	3学年（国際文化科）
使用教科書	数研出版『古典探究 古文編』・数研出版『古典探究 漢文編』						
副教材等	ベネッセコーポレーション『ベネッセ全訳古語辞典（改訂版）』、第一学習社『新版五訂完全マスター古典文法』、第一学習社『完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め』、尚文出版『必携新明説漢文』、尚文出版『必携新明説漢文シリーズ基本練習ノート』、尚文出版『新版理解を深める 核心古文単語351』、第一学習社『新版七訂 新訂総合国語便覧』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

3 指導の重点

・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、その文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨くとともに、それを使って自分の考えや思いを適切に表現することを目指します。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文法のきまりや語句、古典特有の表現などについて理解し、それを踏まえた上で本文を読み味わうことができるようになることを目指します。 ・様々な時代に書かれた散文や韻文を読み味わうことを通して、表現や構成の特色や文化的背景を踏まえた上で、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し理解することを目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。また、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うようにしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「読むこと」や「書くこと」を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。また、進んで読書に親しみ、我が国固有の文化や表現を理解しようとしている。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	随筆	8 A読むこと	『枕草子』	・読解に必要な文語のきまり（特に敬語）や表現、作品の時代的文化的背景の理解を深める。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・同じエピソードを記した他の古文と比べ読みをし、違いなどをまとめ、発表する。	8	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）
5	逸話	5 A読むこと	『呂氏春秋』 『後漢書』 『世説新語』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、内容の理解を深める。	5	ワークシート・ノート（記述の確認）
	日記文学	3 A読むこと	『蜻蛉物語』	・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、日記文学の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	3	ワークシート・ノート（記述の確認）
6	日記文学	3 A読むこと	『蜻蛉日記』 『紫式部日記』 『和泉式部日記』 『十六夜日記』	・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、日記文学の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・各作品を比較し、執筆の意図、背景などの理解を深める。	3	ワークシート・ノート（記述の確認）
	小説	5 A読むこと	『捜神記』 『本事詩』 『聊齋志異』 『閱微草堂筆記』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・同じ小説を日本語訳のものと比べ読みをし、翻訳の際の工夫などを調べ、まとめ、発表する。	5	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）

7	物語	8 A読むこと	『源氏物語』 『住吉物語』	・読解に必要な文語のきまり（特に敬語）や表現を理解し、深める。 ・長い文章を読み、登場人物の心情を理解する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・作品の価値を考察し、執筆の意図、背景、文学史的立場づけなどを調べ、まとめ、発表する。	8	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）
8	物語	3 A読むこと	『源氏物語』 『住吉物語』	・読解に必要な文語のきまり（特に敬語）や表現を理解し、深める。 ・長い文章を読み、登場人物の心情を理解する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・作品の価値を考察し、執筆の意図、背景、文学史的立場づけなどを調べ、まとめ、発表する。	3	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）
	史伝	5 A読むこと	『史記』	・長い漢文を読み、文章の特色や登場人物の心情を理解する。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	5	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
9	史伝	8 A読むこと	『史記』	・長い漢文を読み、文章の特色や登場人物の心情を理解する。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	8	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
10	歴史物語	5 A読むこと	『大鏡』	・文章の内容を構成や展開に即して理解を深める。 ・歴史物語を読み、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。	5	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
	説話	3 A読むこと	『古今著聞集』 『唐物語』	・読解に必要な文語のきまりや表現を理解する。 ・文章の内容や構成を、文語のきまりや叙述を基に的確に捉え、内容の理解を深める。 ・同じ人物について記した他の漢文と比べ読みをし、違いなどをまとめ、発表する。	3	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
11	文章	8 A読むこと	『柳河東集』 『韓昌黎集』	・長い詩文を読み、構成や展開の仕方、詩文の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、登場人物の心情や内容全体の理解を深める。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。	8	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
12	評論	8 A読むこと	『無名草子』 『近代秀歌』 『無名抄』 『正徹物語』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、評論の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	8	ワークシート・ノート（記述の確認）

1	古体詩	8 A読むこと	『詩経』 『陶淵明集』 『杜工部集』 『白氏文集』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・長い作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、古体詩の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容について自分の意見をまとめ、発表する。 ・作品の価値を考察し、執筆の意図、背景、文学史的立場づけなどを調べ、まとめ、発表する。	8	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
2	評論	5 A読むこと	『石上私淑言』 『去来抄』 『風姿花伝』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、評論の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	5	ワークシート・ノート（記述の確認）
	近世随筆	3 A読むこと	『玉勝間』 『花月草紙』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・随筆を読み、人間、社会、自然、学問、芸術などに対する作者の思想や感情を読み取る。	3	ワークシート・ノート（記述の確認）
3	近世小説	8 A読むこと	『日本永代蔵』 『雨月物語』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・近世小説を読み、話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わいながら大意把握の力を養う。	8	ワークシート・ノート（記述の確認）

計 9 6 時間（55 分授業）

7 課題・提出物等

- ・週末課題を課し、その内容をもとに毎週 1 回学習到達度確認問題を行います。課題は提出を原則とします。範囲は学年便りで指示します。
- ・長期休業課題を課し、それをもとに課題考査を行います。課題は提出を原則とします。また定期考査を行います。それぞれ範囲は別途指示します。
- ・単元によって課題として感想シートやレポート、作品の提出などを課します。それに関しては別途指示が出ます。

8 担当者からの一言

- ①古典も近代以降の文章も、単語や語彙、文法に関する正しい理解がなければ、表現されているものを読み味わうことはできません。これらの力は地道な努力と積み重ねによって身につきます。日々の授業の他、学習内容確認問題や各種考査を活用して、確実な定着を目指しましょう。
- ②KJ は授業第一主義です。授業を軸にして、予習・授業・復習・確認のサイクルをしっかりと築きましょう。予習時点で生じた疑問点は授業の中で解決し、そこで新たな疑問が生じた場合は復習時に質問するなどして、理解と定着を心掛けましょう。
- ③「古典探究」の授業では、2 年生での「古典探究」の内容の継続、発展として、時間や空間、表現形式を越えて、様々な作品を扱います。作品にはそれぞれの時代や文化、歴史的な背景があり、そこに生きる人たちの姿を伝えています。作品に触れて抱いた感想や考えを大切にしてください。また、読書を通してさらに多くのものの見方や感じ方、考え方、そして言葉や表現を吸収していきましょう。それが皆さん自身を形づくるものになります。

（担当：友野 忠昭）

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2単位	学年（コース）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『古典探究 古文編』・数研出版『古典探究 漢文編』						
副教材等	ベネッセコーポレーション『ベネッセ全訳古語辞典（改訂版）』、第一学習社『新版五訂完全マスター古典文法』、第一学習社『完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め』、尚文出版『必携新明説漢文』、尚文出版『必携新明説漢文シリーズ基本練習ノート』、尚文出版『新版理解を深める 核心古文単語 351』、第一学習社『新版七訂 新訂総合国語便覧』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

- ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、その文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨くとともに、それを使って自分の考えや思いを適切に表現することを目指します。
- ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文法のきまりや語句、古典特有の表現などについて理解し、それを踏まえた上で本文を読み味わうことができるようになることを目指します。
- ・様々な時代に書かれた散文や韻文を読み味わうことを通して、表現や構成の特色や文化的背景を踏まえた上で、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し理解することを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。また、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うようにしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「読むこと」や「書くこと」を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。また、進んで読書に親しみ、我が国固有の文化や表現を理解しようとしている。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	随筆	6 A読むこと	『枕草子』	・読解に必要な文語のきまり（特に敬語）や表現、作品の時代的文化的背景の理解を深める。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	6	ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）
5	逸話	4 A読むこと	『呂氏春秋』 『後漢書』 『世説新語』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、内容の理解を深める。	4	ワークシート・ノート（記述の確認）
	日記文学	2 A読むこと	『蜻蛉物語』	・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、日記文学の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	2	ワークシート・ノート（記述の確認）
6	日記文学	2 A読むこと	『紫式部日記』 『和泉式部日記』 『十六夜日記』	・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、日記文学の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・各作品を比較し、執筆の意図、背景などの理解を深める。	2	ワークシート・ノート（記述の確認）
	小説	4 A読むこと	『捜神記』 『本事詩』 『閑微草堂筆記』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、内容の理解を深める。	4	ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）
7	物語	5 A読むこと	『源氏物語』	・読解に必要な文語のきまり（特に敬語）や表現を理解し、深める。 ・長い文章を読み、登場人物の心情を理解する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を	5	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）

				踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・作品の価値を考察し、執筆の意図、背景、文学史的立場づけなどを調べ、まとめ、発表する。		レポート（記述の分析）
8	物語	2 A読むこと	『源氏物語』	・読解に必要な文語のきまり（特に敬語）や表現を理解し、深める。 ・長い文章を読み、登場人物の心情を理解する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・作品の価値を考察し、執筆の意図、背景、文学史的立場づけなどを調べ、まとめ、発表する。	2	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）
	史伝	3 A読むこと	『史記』	・長い漢文を読み、文章の特色や登場人物の心情を理解する。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	3	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
9	史伝	6 A読むこと	『史記』	・長い漢文を読み、文章の特色や登場人物の心情を理解する。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	6	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
10	歴史物語	3 A読むこと	『大鏡』	・文章の内容を構成や展開に即して理解を深める。 ・歴史物語を読み、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。	3	話し合い・発表の様子（行動の観察） ワークシート・ノート（記述の確認）
	説話	2 A読むこと	『古今著聞集』	・読解に必要な文語のきまりや表現を理解する。 ・文章の内容や構成を、文語のきまりや叙述を基に的確に捉え、内容の理解を深める。	2	ワークシート・ノート（記述の確認）
11	文章	5 A読むこと	『柳河東集』	・長い詩文を読み、構成や展開の仕方、詩文の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、登場人物の心情や内容全体の理解を深める。	5	ワークシート・ノート（記述の確認）
12	評論	5 A読むこと	『無名草子』 『近代秀歌』 『無名抄』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、評論の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	5	ワークシート・ノート（記述の確認）
1	古体詩	5 A読むこと	『詩経』 『陶淵明集』 『白氏文集』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・長い作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、古体詩の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容について自分の意見をまとめ、発表する。 ・作品の価値を考察し、執筆の意図、背景、文学史的立場づけなどを調べ、まとめ、発表する。	5	ワークシート・ノート（記述の確認）

2	評論	3 A読むこと	『石上私淑言』 『風姿花伝』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、評論の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	3	ワークシート・ノート（記述の確認）
	近世随筆	2 A読むこと	『玉勝間』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・随筆を読み、人間、社会、自然、学問、芸術などに対する作者の思想や感情を読み取る。	2	ワークシート・ノート（記述の確認）
3	近世小説	5 A読むこと	『日本永代蔵』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・近世小説を読み、話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わいながら大意把握の力を養う。	5	ワークシート・ノート（記述の確認）

計64時間（55分授業）

7 課題・提出物等

- ・週末課題を課し、その内容をもとに毎週1回学習到達度確認問題を行います。課題は提出を原則とします。範囲は学年便りで指示します。
- ・長期休業課題を課し、それをもとに課題考査を行います。課題は提出を原則とします。また定期考査を行います。それぞれ範囲は別途指示します。
- ・単元によって課題として感想シートやレポート、作品の提出などを課します。それに関しては別途指示が出ます。

8 担当者からの一言

- ①古典も近代以降の文章も、単語や語彙、文法に関する正しい理解がなければ、表現されているものを読み味わうことはできません。これらの力は地道な努力と積み重ねによって身につきます。日々の授業の他、学習内容確認問題や各種考査を活用して、確実な定着を目指しましょう。
- ②KJは授業第一主義です。授業を軸にして、予習・授業・復習・確認のサイクルをしっかりと築きましょう。予習時点で生じた疑問点は授業の中で解決し、そこで新たな疑問が生じた場合は復習時に質問するなどして、理解と定着を心掛けましょう。
- ③「古典探究」の授業では、2年生での「古典探究」の内容の継続、発展として時間や空間、表現形式を越えて、様々な作品を扱います。作品にはそれぞれの時代や文化、歴史的な背景があり、そこに生きる人たちの姿を伝えています。作品に触れて抱いた感想や考えを大切にしてください。また、読書を通してさらに多くのものの見方や感じ方、考え方、そして言葉や表現を吸収していきましょう。それが皆さん自身を形づくるものになります。

(担当：友野 忠昭)

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3	学年（コース）	3学年（地理選択者）
使用教科書	新祥地理探究（帝国書院） 新祥高等地図（帝国書院）						
副教材等	新祥地理資料 COMPLETE（帝国書院） 新地理要点ノート（啓隆社）						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的・文化的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 指導の重点

- ①授業に集中すること。「どこで」「なぜ」という問題意識を常にもちながら、授業を受ける。こうした姿勢が、地理的な思考能力の向上につながる。
- ②知識を定着させる重要な手段が、週末課題と小テストである。この2つに真剣に取り組み、短いスパンで確実な知識定着を目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取った図表にまとめたりしようとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現しようとしている。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・地形図やグラフ、統計資料の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、週末課題などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5	現代世界の諸地域	東アジア 東南アジア 南アジア 21時間	「新祥地理探究」 （帝国書院）	・東アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・東南アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・南アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。	21	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認 前期中間考査
6 7	現代世界の諸地域	西アジア・中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 21時間		・西・中央アジアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・アフリカ大陸の国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。	21	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認 前期期末考査
8 9	現代世界の諸地域	ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ 18時間		・EUの発展や課題について、国際政治・国際経済の状況を踏まえて考察し、まとめる。 ・ロシアの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・アングロアメリカの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。	18	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
10 11	現代世界の諸地域 現代世界と日本	ラテンアメリカ オセアニア 18時間		・ラテンアメリカの国々について、歴史的背景を踏まえて多面的に考察する。 ・環太平洋地域の政治的・経済的結びつきや今後の課題について、APECなど具体的な国際組織を取り上げて多面的に考察し、まとめる。 ・これまでの学習を踏まえ、日本が現在	18	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

				抱える問題や、国際社会において果たすべき役割について、テーマを設定して考察し、発表する。		
12 1 2	テーマ学習	課題研究 18 時間		・自らが選んだテーマについてより深く探求し、まとめる。 ・これまでの学習を振り返り、まとめる。	18	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・ 2 週間に 1 回位のペースで到達度確認テストがあります。
- ・ 週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。

8 担当者からの一言

- ①地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ②新聞やニュースは地理ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、なぜそうなっているのかを考えてみるのが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
- ③模試は、受けるたびに必ず復習する。授業で学んだ知識が本当に活用できるのか、新たな視点や最新の統計を用いた出題にはどのようなものがあるのかなど、模試から学べることは実に多い。

(担当：氏 名) 三浦 俊亮

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	学年（コース）	3学年（国際文化科）
使用教科書	山川出版社『詳説日本史』						
副教材等	第一学習社『最新日本史図表』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に理解するとともに、我が国の歴史に関する様々な事情を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察するとともに、効果的に説明・議論する力を養う。 ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する深い理解、他国や他国の文化や思想を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--

3 指導の重点

①我が国の歴史の展開に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させることを目指します。 ②学習到達度確認問題で歴史事象に関する基礎的知識の定着を図ります。また、授業の中で得た歴史的思考力、判断力を演習問題等でさらに認識を深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解するとともに、我が国の歴史に関する様々な事情を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察するとともに、効果的に説明・議論する力を身につけている	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する深い理解、他国や他国の文化や思想を尊重することの大切さについての自覚などを身につけている

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 ・ 5	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	4・織豊政権 1・桃山文化 3・幕藩体制の成立 3・幕藩社会の構造 4・幕政の安定 3・経済の発展 1・元禄文化	山川出版社 詳説日本史	・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の全国統一の特色と意義を考察する。 ・幕藩体制の確立過程を考察するとともに、確立期の経済・社会を多面的・多角的に考察する。 ・鎖国政策について、鎖国後の影響も含め歴史的意義を考察する。	19	定期考査 学習到達度確認テスト 課題 授業態度
5 ・ 6 ・ 7	第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ	4・幕政の改革 2・宝暦天明期の文化 4・幕府の衰退と近代への道 2・化政文化 4・開国と幕末の動乱 4・幕府の滅亡と新政府の発足		・幕藩体制幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ・国際情勢の変化に対する幕府の対応と幕府衰退の過程を考察する。 ・開国から明治維新に至る過程を国家構想と関連させ、社会・経済面での変化とともに考察する。	20	
7 ・ 8 ・ 9	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	3・明治維新と富国強兵 3・立憲国家の成立 3・日清・日露戦争と国際関係 3・第一次世界大戦と日本 3・ワシントン会議		・富国強兵政・殖産興業政策に着目し、明治初期の政治的改革と国家的統一過程を考察する。 ・東アジアをめぐる国際環境の変化と日清・日露戦争の経緯を理解し、第一次世界大戦前後の日本の社会経済や政治の変容を考察する。	15	

10	第 14 章	3・近代産業の発展		・資本主義の確立過程を、産業革命や産業の発展に着目して考察する。	21	
・	近代の産業と生	2・近代文化の発達		・戦後恐慌から昭和恐慌に至る経		
11	活	2・市民生活の変容と大衆		済の動揺と対策について考察する。		
・	第 15 章	文化		・軍部の政治的進出に着目し、日中		
12	恐慌と第二次世	5・恐慌の時代		戦争から太平洋戦争への過程を国		
	界大戦	4・軍部の台頭		内外の変化とともに考察する。		
		5・第二次世界大戦				
1	第 16 章	4・占領と改革		・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政	21	
・	占領下の日本	4・冷戦の開始と講和		策や民主化政策と諸政策を冷戦と		
2	第 17 章	3・55 年体制		関連づけながら考察する。		
・	高度経済成長の	4・経済復興から高度経済		・独立後の日本国内政治について、		
3	時代	成長へ		55 年体制の成立から保守政権確立		
	第 18 章	3・経済大国への道		の経過を考察する。		
	激動する世界と	3・冷戦の終結と日本社会		・高度経済成長から経済大国への		
	日本	の変容		過程を国際関係に着目し考察する。		

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題や長期休業中の課題は、別途指示します。

8 担当者からの一言

- ①日本史は復習重視の科目です。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的です。そのためには何よりも授業への集中が大前提となります。
- ②ニュースや新聞を読むことにより、日本と世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。
- (担当：伊藤一億)

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3単位	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用教科書	山川出版社『詳説世界史』						
副教材等	第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』、とうほう『ウィニングコンパス世界史の整理と演習 2023』、山川出版社『詳説世界史10分間テスト 世界史探究』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。 （２）世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、それらを説明したり、議論したりする力を養う。 （３）世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--

3 指導の重点

- ① 2年次に履修した世界史の学習を基礎として、さまざまな地域の歴史の諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸国家の社会や文化の特色などを精選しつつ多面的・多角的に考察し、表現させることを目指します。
- ② 学習到達度確認問題で歴史事象に関する基礎的知識の定着を図ります。また、授業の中で得た歴史的思考力、判断力を演習問題等でさらに認識を深めることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、それらを説明したり、議論したりする力を身に付けている	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・学習到達度確認テスト ・課題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	第6章 イスラーム教の伝播と 西アジアの動向	6時間 1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向	『詳説世界史』（山川出版社）	・南アジア・東南アジア・アフリカ地域のイスラーム化の歴史的特質を理解する。 ・西アジア地域のイスラーム化の歴史的特質を理解する。	6	定期考査 学習到達度確認テスト
						課題（ワークブック・作業プリント） 授業態度

4	第7章 ヨーロッパ 世界の変容 と展開	7時間 1 西ヨーロッパの封建社会 とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	・十字軍の前後の動きや商業や 都市の発展についての歴史的 特質を理解する。 ・ビザンツ帝国を中心とした東 ヨーロッパ諸国の歴史的特質 を理解する。 ・百年戦争後の西ヨーロッパ諸 国の中央集権化の歴史的特質 を理解する	7
5	第8章 東アジア世 界の展開と モンゴル帝 国	6時間 1 アジア諸地域の自立化と 宋 2 モンゴルの大帝国	・中国の宋とモンゴル帝国(元) の歴史的特質を理解する。 ・アジア諸地域の自立化の歴史 的特質を理解する。	6
6	第9章 大交易・大交 流の時代	7時間 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出と アメリカ大陸の変容	・中国の明を中心とするアジア 交易世界の歴史的特質を理解 する。 ・ヨーロッパの海洋進出につい て「世界の一体」との関連も踏 まえつつ歴史的特質を理解す る。	7
6	第10章 アジアの諸 帝国の繁栄	6時間 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	・イスラームの国家(オスマン 帝国・ムガル帝国を中心に)の 歴史的特質を理解する。 ・東アジアの多民族国家である 清朝の歴史的特質を理解する。	6
7	第11章 近世ヨーロ ッパ世界の 動向	7時間 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フラ ンスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	・近世ヨーロッパのさまざまな 諸相(ルネサンス・宗教改革・ 主権国家体制・西ヨーロッパ諸 国を中心とした主権国家体制 の伸長)の歴史的特質を理解す る。 ・自然科学の発展や啓蒙思想の 展開の歴史的特質を理解する。	7
8	第12章 産業革命と 環大西洋革 命	8時間 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と 発展 3 フランス革命とナポレオ ンの支配 4 中南米諸国の独立	・世界の一体化が展開する大西 洋世界において、経済的には産 業革命の、政治的にはアメリカ 独立革命・フランス革命・ラテ ンアメリカ諸国の独立の、歴史 的特質を理解する。	8

9 10	第13章 イギリスの 優位と欧米 国民国家の 形成	7時間 1 ウィーン体制とヨーロッ パの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロ ッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開 と市民文化の影響	・ウィーン体制の成立とその動 揺及び19世紀後半の欧米諸 国についての歴史的特質を理 解する。 ・19世紀欧米文化の歴史的特 質を理解する。	7
10	第14章 アジア諸地 域の動揺	7時間 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの 植民地化 3 東アジアの激動	・アジア諸地域の動揺（特にオ スマン帝国・ムガル帝国・清朝） についての歴史的特質を理解 する。	7
11	第15章 帝国主義と アジアの民 族運動	7時間 1 第2次産業革命と帝国主 義 2 列強の世界分割と列強体 制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族 運動	・帝国主義による欧米列強の状 況とアジアの民族運動につい ての歴史的特質を理解する。	7
12	第16章 第一次世界 大戦と世界 の変容	7時間 1 第一次世界大戦とロシア 革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧 米諸国 3 アジア・アフリカ地域の 民族運動	・第一次世界大戦の前後の国際 関係やロシア革命による影響 及び大戦後の欧米諸国やアジ ア・アフリカ地域の民族運動に ついての歴史的特質を理解す る。	7
1	第17章 第二次世界 大戦と新し い国際秩序 の形成	7時間 1 世界恐慌とヴェルサイユ 体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	・世界恐慌以後のファシズムの 台頭及び第二次世界大戦につ いての歴史的特質を理解する。 ・戦後の国際関係の構築につい ての歴史的特質を理解する。	7
2	第18章 冷戦と第三 世界の台頭	7時間 1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキュー バ危機 3 冷戦体制の動揺	・冷戦の展開、第三世界の登場 及び冷戦体制の動揺について の歴史的特質を理解する。	7
2 3	第19章 冷戦の終結 と今日の世 界	7時間 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	・冷戦の終結と冷戦後の今日の 世界についての歴史的特質を 理解する。	7

計96時間（55分授業）

6 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題や長期休業中の課題は、別途指示します。

7 学習アドバイス

- ・2年次に履修した世界史探究を基礎にして、可能な限り教科書を事前に読んで予習を行い授業に臨み、授業後はノート・プリントの見直しやワーク・資料集を使い効果的に復習を行いましょう。そのためには何よりも前向きな姿勢が大前提となります。
- ・時代の流れの“縦軸”と、同じ時代の各国・地域どうしのつながりである“横軸”を結びつけて考えつつ、学習していきましょう。
- ・世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。日々ニュースや新聞を読むことを心がけよう。

(地歴・公民科：山崎 剛志)

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	3単位	学年（コース）	3学年（情報科学科）
使用教科書	「政治・経済」（数研出版）、「公共」（実教出版）						
副教材等	・「チェック&演習 公共, 政治・経済」（数研出版） ・その他、プリント、ワークなど必要に応じて使用						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

（３）よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

3 指導の重点

- 1 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 2 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- 3 よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代社会を理解する上で必要となる基本事項や追究の方法を理解し、身につけている。また、統計資料や画像などから必要な情報を収集し、それらを使って自分の考えをまとめることができる。	・現代社会の諸問題を理解し、福祉や公正といった公共的な観点を踏まえて思考・判断し、他者に対して自分の考えを適切に表現することができる。	現代社会の基本事項から課題点を導き出し、その問題の解決策等を導こうとしている。また、適切な資料を用いるなどして、公共的な視点から自分の考えをまとめようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	民主政治の基本 原理と展開	・民主政治の基本 原理 ・政治体制の比較 (8時間)	「公共」 (実教出版、 「政治・経済」 (数 研出版)	民主政治の基本原則とその意義 について学び、併せて各国の政治 体制の違いについて考察する。	8	授業態度 発問評価 学習到達度確 認テスト
5	日本国憲法と 基本的人権	・基本的人権の保 障 ・日本国憲法の平 和主義 (9時間)		日本国憲法の基本的性格につい て学ぶとともに、基本的人権の保 障、さらには日本国憲法が掲げる 平和主義の理念について理解す る。	9	授業態度 発問評価 学習到達度確 認テスト
6	日本の政治機 構	・立法・行政・司法 のしくみ		立法・行政・司法の各機構のあり 方と課題について理解する。	9	授業態度 発問評価

		・地方自治のしくみと住民生活 (9時間)		地方自治について学び、民主政治の現状と課題を考察する。		学習到達度確認テスト 定期考査
7 8	政治参加と民主政治の課題	・戦後政治と政党 ・選挙制度のしくみ (8時間)		選挙制度の歴史としくみについて学ぶことで投票の大切さを理解する。併せて世論と情報化社会の危うさについても考察する。	8	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
9	経済活動の意義と経済体制	・資本主義経済の発展と変容 ・経済活動の主体 (9時間)		資本主義経済の成り立ちとその変容を歴史的展開を通して学ぶことで、経済の基本原理およびそれを支える思想を理解する。	9	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト 定期考査
10	現代経済のしくみ	・市場経済のしくみ ・金融・財政のしくみと働き (10時間)		市場経済のしくみを学び、国民所得や経済成長についてその数値が表す意味を理解する。併せて金融のはたらきや租税の意義について理解する。	10	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
11	日本経済と福祉の向上	・戦後日本経済のあゆみ ・少子高齢社会と社会保障 (10時間)		戦後の日本経済のあゆみを軸に、公害や農業問題、さらには労働問題や消費者問題など現代日本の経済的課題について考察する。	10	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト 定期考査
12	国際政治の動向	・国際社会と国際法 ・戦後国際政治の展開 (9時間)		国際社会における国際法の重要性とその意義について理解し、国際政治の現状と課題について考察する。	9	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
1	国際経済の動向	・国際経済のしくみ ・貿易と国際収支 (10時間)		国際経済のしくみを理解し、その現状と課題について考察する。併せて地域主義の動きについても理解する。	10	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト
2	国際社会の課題と日本の役割	・発展途上国の経済と経済協力 ・日本の国際的地位と役割 (8時間)		地域紛争および人種・民族問題の背景やその原因について学び、国際社会における日本の役割について考察する。	8	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト 定期考査
3	グローバル化にともなう人々の生活	・持続可能な国際社会と世代間の公平 (6時間)		国際社会のグローバル化を踏まえ、持続可能な社会のあり方について世代を超えた視点から考察する。	6	授業態度 発問評価 学習到達度確認テスト

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎月、学習到達度確認テストを行います。範囲等はテスト前に提示します。
- ・週末課題を課します。長期休業中の課題等は別途指示します。課題は単にこなすだけの「作業」に終わらず、学習内容の定着を目指して行いましょう。

8 担当者からの一言

- ①予習より復習重視の科目です。授業後に、ノートの見直しや教科書等による復習を行うと効果的です。
- ②新聞やニュースは授業で扱う事項の宝庫です。日々起こっている出来事に興味をもち、その背景を考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。

(担当：清水 仁)

教科	数学	科目	数学C	単位数	2単位	学年（科）	3学年(国際文化科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学I』、『NEXT 数学A』、『EXT 数学II』、『NEXT 数学B』、『NEXT 数学C』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学I+A』、『CONNECT 数学II+B』、『CONNECT 数学C（ベクトル）』 啓林館『Focus Gold Smart 数学I+A』、『Focus Gold Smart 数学II+B+ベクトル（数学C）』、						

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。また、各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実践問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

既習内容を発展的内容に応用していくため、前半は基礎的・基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成していく。自宅学習用課題にも重点を置きながら指導を行う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査、学習到達度確認テストの分析 ・ 観察、式やグラフでの表現の観察 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査、学習到達度確認テストの分析 ・ 授業中の発言、発表への取組の観察 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表への取組の観察 ・ 提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。
課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・ 授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

基礎、標準レベルの力をつけるには、同じ問題に繰り返し取り組むことが重要です。焦っているいろいろな問題に手を着けるのではなく、常に参考書や授業で扱う問題に立ち返って弱点を無くしていくことが近道です。また、標準レベル以上の問題は「考える」ことを意識し、解法の糸口を模索してください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	数学Ⅰ分野		数と式 2次関数	式の特徴に着目して工夫をして計算を行う力を養う。 グラフや最大値、最小値を考察する力を養う。	2 4	・定期考査 ・学習到達度 確認テスト ・課題 ・授業中の発言 ・発表への取組
5	数学Ⅰ分野		図形と計量 データの分析	三角比の性質を利用し、数学的・日常的問題を解決する。 適切な指標を用いて分析し、問題解決する力を養う。	4 2	
6	数学A分野		場合の数と確率 図形の性質	状況に応じて適切な考え方で結果を導く力を養う。 性質を用いて、問題解決や証明をする力を養う。	4 3	
7	数学Ⅱ分野		式と証明 図形と方程式	証明の手法を学び、正しく証明や記述を行う力を養う。 性質を用いて、グラフについて考察する力を養う。	4 3	
8・9	数学Ⅱ分野		図形と方程式 三角関数	性質を正しく理解・活用し、問題解決する力を養う。	2 4	
10	数学B分野		指数・対数関数 微分法・積分法	指数・対数を正しく計算し、問題解決する力を養う。 微分・積分の性質を活用する力を養い、接線や増減表・面積の複合的な課題を解決する。	3 4	
11	数学C分野		平面ベクトル ・空間ベクトル 数列	ベクトルを用いて図形の性質を考察するなど、様々な考察に活用できる力を養う。 いろいろな数列の一般項とその和について考察し、それらを事象の考察に活用する力を養う。	4 3	
12			共通テスト対策	共通テスト対策	6	
1			共通テスト対策 融合分野の問題	共通テスト対策 実践的な演習を行い、記述力の養成・充実を図る。	2 4	
2・3			融合分野の問題	実践的な演習を行い、記述力の養成・充実を図る。	6	

計 64 時間（55 分授業）

教科	数学	科目	総合数学	単位数	3単位	学年（科）	3学年(国際文化科)
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅰ』、『NEXT 数学A』、『EXT 数学Ⅱ』、『NEXT 数学B』、『NEXT 数学C』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅰ+A』、『CONNECT 数学Ⅱ+B』、『CONNECT 数学C（ベクトル）』 啓林館『Focus Gold Smart 数学Ⅰ+A』、『Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）』、						

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することとおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育成する。また、各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実践問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

既習内容を発展的内容に応用していくため、前半は基礎的・基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成していく。自宅学習用課題にも重点を置きながら指導を行う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・観察、式やグラフでの表現の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。
課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

基礎、標準レベルの力をつけるには、同じ問題に繰り返し取り組むことが重要です。焦っているいろいろな問題に手を着けるのではなく、常に参考書や授業で扱う問題に立ち返って弱点を無くしていくことが近道です。また、標準レベル以上の問題は「考える」ことを意識し、解法の糸口を模索してください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	数学Ⅰ分野		数と式 2次関数	式の特徴に着目して工夫をして計算を行う力を養う。 グラフや最大値、最小値を考察する力を養う。	3 5	・定期考査 ・学習到達度 確認テスト ・課題 ・授業中の発言 ・発表への取組
5	数学Ⅰ分野		図形と計量 データの分析	三角比の性質を利用し、数学的・日常的問題を解決する。 適切な指標を用いて分析し、問題解決する力を養う。	5 4	
6	数学A分野		場合の数と確率 図形の性質	状況に応じて適切な考え方で結果を導く力を養う。 性質を用いて、問題解決や証明をする力を養う。	6 4	
7	数学Ⅱ分野		式と証明 図形と方程式	証明の手法を学び、正しく証明や記述を行う力を養う。 性質を用いて、グラフについて考察する力を養う。	5 4	
8・9	数学Ⅱ分野		図形と方程式 三角関数	性質を正しく理解・活用し、問題解決する力を養う。	4 8	
10	数学B分野		指数・対数関数 微分法・積分法	指数・対数を正しく計算し、問題解決する力を養う。 微分・積分の性質を活用する力を養い、接線や増減表・面積の複合的な課題を解決する。	5 5	
11	数学C分野		平面ベクトル ・空間ベクトル 数列	ベクトルを用いて図形の性質を考察するなど、様々な考察に活用できる力を養う。 いろいろな数列の一般項とその和について考察し、それらを事象の考察に活用する力を養う。	5 5	
12			共通テスト対策	共通テスト対策	9	
1			共通テスト対策 融合分野の問題	共通テスト対策 実践的な演習を行い、記述力の養成・充実を図る。	3 6	
2・3			融合分野の問題	実践的な演習を行い、記述力の養成・充実を図る。	10	

計 96 時間（55 分授業）

教科	理科	科目	総合理科	単位数	3	学年（コース）	3 学年（国際文化科）
使用教科書	・数研出版『化学基礎』 ・数研出版『新編生物基礎』 ・東京書籍『新編物理基礎』						
副教材等	・数研出版『リードα化学基礎』 ・数研出版『リードα生物基礎』 ・数研出版『大学入学共通テスト対策チェック&演習 化学基礎』 ・数研出版『大学入学共通テスト対策チェック&演習 生物基礎』 ・数研出版『大学入学共通テスト対策チェック&演習 物理基礎』 ・浜島書店『ニューステージ生物図表』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

身近な事象に対する関心や探究心を高め、物理学的・化学的・生物学的視点に立って探究する能力を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、現代が抱える環境問題や生命に関する問題に対して、科学的に考察する態度を育成する。

3 指導の重点

- ① 様々な科学事象に関心を持ち、それらの事象を科学的に分析しようとする態度を養う。
- ② 実験やモデルを通じた活動を通して、科学的に思考する能力と態度を育てる。
- ③ 基本的な概念や原理・法則を理解する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。 ・自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解している。	身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。	自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの 内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの 内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの 内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6	(化学分野) 物質の構成と化学結合 (生物分野) ・生物の特徴 ・遺伝子とそのはたらき (物理分野) 力学・波動		教科書 副教材	(化学分野) 2年次に学習した化学基礎の学習内容を踏まえて、問題演習を通じて各単元内容の理解をより深める。 (生物分野) 生物の多様性と共通性、エネルギーと代謝、呼吸と光合成、遺伝情報とDNA、遺伝情報の複製と分配、遺伝情報の発現 (物理分野) ・運動方程式、仕事とエネルギー ・波や音の性質、弦や気柱の振動	32	学習到達度確認問題 提出物の確認 前期中間考査
7 8 9	(化学分野) 物質の変化 (生物分野) ・ヒトの体内環境の維持 ・生物の多様性と生態系 (物理分野) 熱・電磁気			(化学分野) 2年次に学習した化学基礎の学習内容を踏まえて、問題演習を通じて各単元内容の理解をより深める。 (生物分野) 体内での情報伝達と調節、体内環境の維持のしくみ、免疫のはたらき、植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系と生物の多様性、生態系のバランスと保全 (物理分野) ・温度と熱、熱量保存の法則 ・静電気、電流回路、電流と磁場	26	学習到達度確認問題 提出物の確認 前期末考査
10 11 12	化学基礎、生物基礎、物理基礎に関わる全般的範囲				38	学習到達度確認問題 提出物の確認 後期中間考査

1						
2						

計 96 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・各学期に数回の小テストがあります。テスト範囲は、その都度、連絡します。
- ・実験、観察等を行った場合、レポートの作成と提出があります。
- ・週末や長期休業中の課題は、別途指示します。

8 担当者からの一言

① 課題を設定しましょう。

現在の自分を理解し、思考問題や計算問題など、自分が取り組む上でふさわしい課題を見つけましょう。

② 家庭学習を継続しましょう。

課題解決には、基本的な学力は不可欠です。家庭学習で一つ一つの事柄をしっかりと覚えていき、不足する知識を補いましょう。

③ 授業を中心にしましょう。

授業に集中して臨み、授業内でしっかりと理解していくこと。学習到達度確認問題をとおして基本事項を定着させましょう。

(担当：小林、金安、川上)

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	学年（コース）	3学年 国際文化科 情報科学科
使用教科書	大修館書店 『現代高等保健体育』						
副教材等							

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
--

3 指導の重点

- ①各種の運動をととして運動技能の向上を図り、バランスのとれた身体の発達を促すとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。
- ②自分の興味ある種目を選択し、積極的にその種目に取り組む。
- ④ 運動する習慣を身に付け、基礎体力と柔軟性の向上を目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各種目における記録測定 ・各種目における技能テスト ・体育理論の考査	・今日の、活動内容をよく理解して自分なりに考えながら練習している ・グループ活動などの際に、仲間と協力しながら最も合理的な練習方法を考えて行動している。 ・その日の活動内容に沿った適切な服装をしている。	・自己の技能と体力の中で精一杯取り組んでいる。 ・準備運動や、用具の準備・片付けなどに積極的に取り組んでいる。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	体力づくり	体づくり運動	トレーニング	柔軟性・筋力作りのトレーニングの基礎を学び健康の保持増進を目指す。	5	授業の取り組み
5	持久走	体づくり運動	持久走	約5kmを走りきれ体力をつけ、計測を行う	10	持久走の練習とタム計測
6	器械体操と陸上競技の選択	器械体操 陸上競技	1クラスは器械運動と陸上競技のどちらかを選択する。	・器械体操はマット・鉄棒・跳び箱の中から1種目を選び、グループで練習を行う。 ・陸上競技はハードルと円盤投げと長距離の中から1種目を選び、グループで	15	技能テスト 記録計測 グループ活動の様子

7	01 生涯スポーツ 02 ライフスタイル 03 スポーツを推進する取り組み 04 豊かなスポーツライフの創造	柔道 体育理論	1 クラスは柔道を行う 体育理論	練習を行う。 ・柔道は3年目になるので乱取りができるようになることを目標とする。 ・教科書を用いながら、自分の生活の中にスポーツを取り入れる意義や考え方を学ぶ。 ・社会としてはどのように生涯スポーツを振興しているのか学ぶ ・個人としても社会としてもこれからの生涯スポーツを充実させるための課題について学ぶ	1 5 6	前期期末考査 授業ノート
8						
9 10 11	選択種目	屋外球技	テニス サッカー ソフトボール の選択	テニス（ネット型） サッカー（ゴール型） ソフトボール（ベースボール型） の3つの球技の中から1種目を選択する。基礎技能を習得し、最終的にはゲームができるようになる。	2 4	授業への取り組み 基礎技能
12 1 2 3	選択球技	屋内球技	バレーボール バスケットボール バドミントン 卓球の中から1種目を選択する	バレーボール（ネット型） バスケットボール（ゴール型） バドミントン（ネット型） 卓球（ネット型）の4種目の中から1種目を選択し、基礎技能を習得し、最終的にはゲームができるようになる。	2 4	授業の取り組み 基礎技能

単元、教材が変更になることもある

計96時間（55分授業）

7 課題・提出物等

- ・体育理論の授業ノートまたは授業プリント
- ・選択種目の授業ノート

8 担当者からの一言

- ①受験も健康な身体が資本です。体育授業を効果的に使って体力を高めてください。
- ②選択種目ではグループで練習してもらう場面がありますが、仲間で意見を出し合って効果的な練習を行ってください。
- ③生涯にわたってスポーツを主体的に実践していく態度と方法を身に付けよう。（担当：三富 哲也）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4単位	学年（コース）	3学年 情報科学科
使用教科書	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅢ』						
副教材等	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅢ WORKBOOK』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点をもち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

3 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。 ① 必要な情報を話の展開に注意しながら正確に聞き取り、話し手の意図を把握したり、幅広い視点から概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。 ② 必要な情報を文章の展開に注意しながら正確に読み取り、書き手の意図を把握したり、幅広い視点から概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。 ③ 多様な語句や文を効果的に用いて、情報や考え、課題の解決策などを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝え合うこと。 ④ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝えること。 ⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝えること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を目的や場面、状況などに応じて効果的に活用できる技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、意図などを正確に理解し、理解したことを基に幅広い視点から論理的に表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・学習に意欲的に取り組んでいる。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Unit1 What thinking and study habits can help us succeed?		・オンライン科学雑誌の記事 ・ポッドキャストのインタビュー ・ウェブの記事	・方法を読み取る／聞き取る ・悩みと助言を読み取る	1 4	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート
5	Unit2 How can we use AI to improve education?		・大学のウェブサイトの記事 ・インタビュー動画 ・文学（SF短編）	・時系列と過程を読み取る ・仕組みと要点を聞き取る ・物語の背景と含意を読み取る	1 4	・提出物 ・小テスト
6	Unit3 What do folktales tell us about human values?		・ウェブの記事 ・物語とディスカッション ・物語	・要点を読み取る ・物語の流れと教訓を聞き取る／読み取る	1 4	
7	Unit4 What items would you place in a time capsule?		・ウェブのニュース記事 ・ディスカッション ・ウェブの記事	・詳しい特徴や描写を読み取る ・選択と結論を聞き取る ・複数の視点の報道を読み取る	1 4	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート
8	Unit5 What are the rewards and challenges of living in a different culture?		・本のショッピングサイト ・ポッドキャストのインタビュー ・大学のブログの記事	・本の情報を読み取る、抜粋を読む ・経験を聞き取る ・一般論と個別の体験を読み取る	8	・提出物 ・小テスト
9	Unit6 How can art be made accessible to all?		・イベントの紹介記事 ・美術館のオーディオガイド ・ウェブの記事	・特徴を読み取る ・詳しい描写を聞き取る ・専門的な説明を読み取る	1 4	
10	Unit7 How can we preserve life below water?		・環境保全団体のウェブサイトの記事 ・説明の動画 ・英字新聞の記事	・経緯と因果関係を読み取る ・背景知識を活用して聞き取る ・問題と解決策を読み取る	1 4	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート

11	Unit8 Is there anything money can't buy?		・スポーツに関するウェブサイトの記事 ・ディスカッション ・音声ニュースの原稿	・主張とその根拠や具体例を読み取る ・話し合いの帰結を聞き取る ・異なる立場の主張を読み取る	1 4	・提出物 ・小テスト
12	Reading Enrichment1		・物語	・架空の世界を想像して読む	2 2	・提出物
1	Nineteen Eighty-Four			・書き手の意図を考えながら読む		・振り返りシート
2	Reading Enrichment2					
3	Dead Men's Path					

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期的に小テストがあります。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考查毎にワークの提出、振り返りシートの記入、パフォーマンステストがあります。

8 担当者からの一言

予習＋授業＋復習 → テスト → 振り返り → 改善 → → → 英語力アップ

「継続は力なり」ではありますが、上のサイクルに自分なりの楽しみ（プラスα）を加えてほしいです。これまでの経験を活かして、自主的、積極的な姿勢で臨みましょう。

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2単位	学年（コース）	3学年 情報科学科
使用教科書	新興出版社啓林館『Vision Quest English Logic and ExpressionⅢ』						
副教材等	リクルート『スタディサブリ 英語4技能コース』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点をもち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域（話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動を通して、英語を用いて主体的、自律的にコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

3 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。

- ① ディスカッションやディベートなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと。
- ② 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身に付けている。 ・情報や考えなどを効果的に伝える多様な表現を理解し身に付けている。	・情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを適切な英語で論理的に表現したり伝え合ったりすることができる。	・自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、論理の構成や展開を工夫して表現し、詳しく伝えようとしている。 ・学習に意欲的に取り組んでいる。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	L1 Friendship and improvement		相談メール	助言を与える	8	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート ・提出物 ・小テスト
5	L2 Which is better, a paper or an electronic dictionary?		書店での商品説明	譲歩 長所短所を指摘する	8	
6	L3 Can you change your personality?		新聞の悩み相談コラム	関係を述べる	8	
7	L4 How do we make decisions?		講義	判断の根拠	8	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート ・提出物 ・小テスト
8	L5 Online doctor consultations		ウェブサイト	代替 比較する	4	
9	L6 Healthy lifestyle		友達同士の会話	結果	8	
10	L7 What do you do after school?		メール交換	物事への正負の影響	8	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート ・提出物 ・小テスト
11	L8 Direct and indirect ways of communication		オンライン講義	差異を考える	8	
12	L9 Should we use social media?		記事	類似	4	
1	L10 Are you a good user of social media?		講義	理由		・提出物 ・振り返りシート

計 64 時間（55 分授業）

7 課題・提出物等

- ・エッセイの提出があります。 ・考査毎に振り返りシートの記入、パフォーマンステストがあります。

8 担当者からの一言

複数段落の文章を英語で書いたり、ディベートを行ったりします。主体的かつ積極的に授業に参加しよう。

教科	理数	科目	理数数学Ⅱ	単位数	4単位	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅰ』、『NEXT 数学A』、『EXT 数学Ⅱ』、『NEXT 数学B』 『NEXT 数学Ⅲ』、『NEXT 数学C』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅰ+A』、『CONNECT 数学Ⅱ+B』、『CONNECT 数学Ⅲ+C』 啓林館『Focus Gold Smart 数学Ⅰ+A』、『Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）』、 『Focus Gold Smart 数学Ⅲ+複素数平面・式と証明（数学C）』						

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいた判断する態度を育成する。各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実戦問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

極限、微分法、微分法の応用、積分法とその応用の考え方を理解させ、標準的・発展的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。「発展内容の学習」においては、特に数学Ⅲの分野に重点を置く。基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成することで、高等学校数学の総まとめとする。授業や自宅学習を中心とした学習に重点を置きながら、目標達成に努めてもらいたい。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査、学習到達度確認テストの分析 ・ 観察、式やグラフでの表現の観察 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査、学習到達度確認テストの分析 ・ 授業中の発言、発表への取組の観察 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表への取組の観察 ・ 提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・ 授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

①自分で考える力、論理的に考える力を身につける

数学Ⅲ・Cは、授業内容もより高度になります。よく理解しないまま公式で解こうとするようなやり方では、すぐに行き詰まってしまう。常に意味を考え、深く理解できるまで考えるようにしてください。

②CONNECT、Focus Gold Smart などの問題集を繰り返し解くことで基本を定着させる

条件に応じてどう考えれば良いのかを判断するために、まずは基礎的な考え方をもれなく習熟することが必要です。早期から繰り返しの学習に取り組み、まずは基本を完璧に身につけましょう。

③ハイレベルな問題に積極的に挑戦していく

基本が身についたら、発展課題や問題集の発展問題に取り組み、応用力を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Ⅲ 関数		逆関数と合成関数	・逆関数・逆関数の性質・合成関数	2	・定期考査
	Ⅲ 極限		数列の極限 関数の極限	・数列の極限・無限等比数列・無限級数 ・関数の極限・三角関数と極限 ・関数の連続性	4 4 2	・学習到達度 確認テスト ・課題
5	C 複素数平面		複素数平面	・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理 ・複素数と図形	2 2 2	・授業中の発言 ・発表への取組
	C 式と曲線		2次曲線 媒介変数表示と極座標	・放物線 ・楕円 ・双曲線 ・2次曲線の平行移動 ・2次曲線と直線 ・2次曲線と離心率 ・曲線の媒介変数表示 ・極座標と極方程式 ・コンピュータの利用	3 2	
6	Ⅲ 微分法		導関数 いろいろな関数の導関数	・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第n次導関数 ・曲線の方程式と導関数	3 2	
	Ⅲ 微分法の応用		導関数の応用 いろいろな応用	・接線の方程式 ・平均値の定理 ・関数の値の変化 ・関数のグラフ ・方程式、不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似式	5 4	
7	Ⅲ 積分法とその応用		不定積分 定積分	・不定積分とその基本性質・置換積分法 ・部分積分法・いろいろな関数の不定積分 ・定積分のいろいろな問題	4 4	
			積分法の応用	・面積・体積・道のり・曲線の長さ	4	
8・9			数学Ⅰ・A分野の発展的学習	主に数学Ⅰ・Aの各単元の応用力の養成	15	
10			数学Ⅱ・B分野の発展的学習	主に数学Ⅱ・Bの各単元の応用力の養成	14	
11			数学Ⅲ・C分野の発展的学習	主に数学Ⅲ・Cの各単元の応用力の養成	14	

1 2			共通テスト対策	共通テスト対策。	12	
1			共通テスト対策 各分野を融合した 総合的、発展的内容 の学習	共通テスト対策。 複数の分野における知識・考え方を融合した総合的な内 容の学習に取り組む。	3 8	
2・3			各分野を融合した 総合的、発展的内容 の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した総合的な内 容の学習に取り組む。	13	

計 128 時間 (55 分授業)

教科	理数	科目	理数数学特論	単位数	4単位	学年（科）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『NEXT 数学Ⅰ』、『NEXT 数学A』、『EXT 数学Ⅱ』、『NEXT 数学B』 『NEXT 数学Ⅲ』、『NEXT 数学C』						
副教材等	数研出版『CONNECT 数学Ⅰ+A』、『CONNECT 数学Ⅱ+B』、『CONNECT 数学Ⅲ+C』 啓林館『Focus Gold Smart 数学Ⅰ+A』、『Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル（数学C）』、 『Focus Gold Smart 数学Ⅲ+複素数平面・式と証明（数学C）』						

1 学習目標

数学における概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めるとともに、課題を総合的かつ多面的に考察することをおして、思考力・判断力・表現力を高め、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいた判断する態度を育成する。各単元での基礎基本の定着を徹底させ、実戦問題に対応できる思考能力を身につける。

2 指導の重点

極限、微分法、微分法の応用、積分法とその応用の考え方を理解させ、標準的・発展的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。「発展内容の学習」においては、特に数学Ⅲの分野に重点を置く。基本的内容や重要事項の定着も十分にはかり、後半で応用力・記述力を育成することで、高等学校数学の総まとめとする。授業や自宅学習を中心とした学習に重点を置きながら、目標達成に努めてもらいたい。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにしている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ 考査、学習到達度確認テストの分析 ・ 観察、式やグラフでの表現の観察 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査、学習到達度確認テストの分析 ・ 授業中の発言、発表への取組の観察 ・ 提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表への取組の観察 ・ 提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。
課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・ 授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

①自分で考える力、論理的に考える力を身につける

数学Ⅲ・Cは、授業内容もより高度になります。よく理解しないまま公式で解こうとするようなやり方では、すぐに行き詰まってしまう。常に意味を考え、深く理解できるまで考えるようにしてください。

②CONNECT、Focus Gold Smart などの問題集を繰り返し解くことで基本を定着させる

条件に応じてどう考えれば良いのかを判断するために、まずは基礎的な考え方をもれなく習熟することが必要です。早期から繰り返しの学習に取り組み、まずは基本を完璧に身につけましょう。

③ハイレベルな問題に積極的に挑戦していく

基本が身についたら、発展課題や問題集の発展問題に取り組み、応用力を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Ⅲ 関数		逆関数と合成関数	・逆関数・逆関数の性質・合成関数	2	・定期考査
	Ⅲ 極限		数列の極限 関数の極限	・数列の極限・無限等比数列・無限級数 ・関数の極限・三角関数と極限 ・関数の連続性	4 4 2	・学習到達度 確認テスト ・課題
5	C 複素数平面		複素数平面	・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理 ・複素数と図形	2 2 2	・授業中の発言 ・発表への取組
	C 式と曲線		2次曲線 媒介変数表示と極座標	・放物線・楕円・双曲線・2次曲線の平行移動 ・2次曲線と直線・2次曲線と離心率 ・曲線の媒介変数表示・極座標と極方程式 ・コンピュータの利用	3 2	
6	Ⅲ 微分法		導関数 いろいろな関数の導関数	・微分係数と導関数・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数・第n次導関数 ・曲線の方程式と導関数	3 2	
	Ⅲ 微分法の応用		導関数の応用 いろいろな応用	・接線の方程式・平均値の定理・関数の値の変化 ・関数のグラフ ・方程式、不等式への応用・速度と加速度 ・近似式	5 4	
7	Ⅲ 積分法とその応用		不定積分 定積分	・不定積分とその基本性質・置換積分法 ・部分積分法・いろいろな関数の不定積分 ・定積分のいろいろな問題	4 4	
			積分法の応用	・面積・体積・道のり・曲線の長さ	4	
8・9			数学Ⅰ・A分野の発展的学習	主に数学Ⅰ・Aの各単元の応用力の養成	15	
10			数学Ⅱ・B分野の発展的学習	主に数学Ⅱ・Bの各単元の応用力の養成	14	
11			数学Ⅲ・C分野の発展的学習	主に数学Ⅲ・Cの各単元の応用力の養成	14	

1 2			共通テスト対策	共通テスト対策。	12	
1			共通テスト対策 各分野を融合した 総合的、発展的 内容の学習	共通テスト対策。 複数の分野における知識・考え方を融合した総合的な 内容の学習に取り組む。	3 8	
2・3			各分野を融合した 総合的、発展的 内容の学習	複数の分野における知識・考え方を融合した総合的な 内容の学習に取り組む。	13	

計 128 時間 (55 分授業)

教科	理数	科目	理数物理	単位数	4	学年（コース）	3 学年（情報科学科）
使用教科書	・東京書籍『物理』						
副教材等	・啓林館『ステップアップノート物理改訂版』 ・数研出版『改訂版大学入学共通テスト対策チェック&演習物理』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。
--

3 指導の重点

法則や式の意味を考え、必要な問題演習を確保し、「丸暗記」に頼らず、物理的な思考ができるようにする。また、実験的な要素も取り入れ、視覚的なイメージを持つことができるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。 ・自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解している。	身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。	自然現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、学習到達度確認問題 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト、学習到達度確認問題 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、提出物の内容の確認 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	波	波動 (21 時間)	教科書 副教材	・ホイヘンスの原理と波の反射・屈折 ・平面波の干渉	6	学習到達度確認問題 提出物の確認 中間考査
5	音			・音の性質 ・ドップラー効果	5	
6	光			・光の速さと光の性質 ・光の回折と干渉 ・レンズと球面鏡	10	
7	電気	電気と磁気 (30 時間)	教科書 副教材	・クーロンの法則、電場と電位 ・電場中の導体、不導体 ・コンデンサー	8	学習到達度確認問題 提出物の確認 期末考査
8				・直流回路とキルヒホッフの法則 ・コンデンサーを含む回路 ・非オーム抵抗と半導体	6	
9					・電流がつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力、ローレンツ力 ・電磁誘導と交流回路 ・電磁波	16
10	磁気	原子と原子核 (20 時間)		・電子の発見 ・光電効果と、光量子仮説、物質波 ・コンプトン効果 ・水素原子のスペクトル、ボーアの原子模型	10	
11	原子			・原子核の構成と崩壊、半減期、放射線 ・原子核反応、質量とエネルギーの等価性 ・素粒子と 4 つの基本的な力	10	
	原子核					

12		物理学が築く未来 (4 時間)	教科書 副教材	・物理学の発展と科学技術への貢献 ・物理学が拓く未知の世界の探究	4	学習到達度確認問題 提出物の確認
1	物理基礎・ 物理	力学		・物理基礎、物理の各単元において発展的内容を扱う。 ・物理学的な考え方はたらかせ、自然科学への理解を深めるとともに、自然科学に対する探究心を養う。	11	
		熱力学			11	
		波動			11	
2		電磁気 原子 (53 時間)			10 10	

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・各月に数回の小テストがあります。テスト範囲は、その都度、連絡します。
- ・実験、観察を行った場合、レポートの作成と提出があります。
- ・長期休業中の課題は、別途指示します。

8 担当者からの一言

自然界には不思議なことがたくさんあります。物理学はそのような自然界から法則を発見する学問です。世界がどのようにできているのかを知りたい、という純粋な探究心が科学や物理を発展させてきました。物理学の発展を追体験しながら、探究的に学習を進めていきましょう。(担当：志賀 荘一郎)

教科	理数	科目	理数化学	単位数	4	学年（コース）	3学年（情報科学科）
使用教科書	数研出版『化学』						
副教材等	数研出版『新課程リードα化学基礎+化学』、第一学習社『新課程二訂版スクエア最新図説化学』 数研出版『2024 実戦 化学重要問題集 化学基礎・化学』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 - 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 - 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
--

3 指導の重点

- 自然科学に対する関心を高め、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 - 実験を行い、科学的に探究するために必要な技能を身に付ける。 - 実験等を通じて、化学的な事物・現象に主体的に関わろうとする態度と、科学的に探究する力を養う。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。 - 観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。	身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。	- 自然現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えることができる。 - 基本的な事項を習得するために、日常的に学習に取り組むことができる。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業内の実験及び演習 ・発問に対する回答 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の活動への取組状況 ・授業内の実験及び演習 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習到達度確認問題 ・実験レポート ・授業中の活動への取組状況 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	第2編 第4章 化学平衡	1「平衡の移動」 5「電解質水溶液の化学平衡」	教科書 リードα	平衡がどのように移動するかを理解する。電離平衡について理解し、電離定数を利用した pH の求め方を理解する。	6	学習到達度 確認問題 課題提出状況 前期中間考査
	第3編 第1章 非金属元素	9		化学基礎で学んだ周期表や元素の名称を復習し、非金属元素の各単体や各化合物の性質を理解する。	9	
5	第3編 第2章 金属元素（Ⅰ） 第3編 第3章 金属元素（Ⅱ）	7「典型金属元素」 7「遷移元素」		典型金属元素の各単体や各化合物の性質を理解する。 遷移元素全般についてその特徴を理解し、身近な元素である鉄、銅などの各単体や各化合物、イオンの性質を理解する。	14	
	第4編 第1章 有機化合物の分類と分析 第4編 第2章 脂肪族炭化水素	3「有機化合物の分類と分析」 7「脂肪族炭化水素」		有機化合物の特徴や、実験から分子式を求める方法などを学ぶ。 有機化合物の命名法や構造、性質を理解する。	10	
6	第4編 第3章 アルコールと関連化合物	12		酸素原子を含む有機化合物の、アルコール、カルボン酸、エステルなどについて、特徴的な性質を学ぶ。	12	学習到達度 確認問題 課題提出状況 前期期末考査
8 9	第4編 第4章 芳香族化合物	14	教科書 リードα	ベンゼン環を含む芳香族化合物の主要な反応と、それらによりつくられる代表的な化合物の性質を学ぶ。	14	

10	第5編 第1章 高分子化合物の性質 第5編 第2章 天然高分子化合物	1「高分子化合物の性質」 12「天然高分子化合物」		高分子化合物全般について、分類と構造、および性質を学び、重合反応を理解する。また、生体を構成する有機化合物である、糖、アミノ酸・タンパク質、核酸の構造や性質を理解する。	13	学習到達度 確認問題 課題提出状況 後期中間考査
11	第5編 第3章 合成高分子化合物	8「合成高分子化合物」		合成高分子化合物の合成繊維、合成樹脂、天然ゴム・合成ゴムの原料や構造、性質を理解する。	8	
	復習	8		重要単元を復習し、問題演習を通じて理解をより深める。	8	
12	復習	10	教科書	全範囲を復習するために問題演習を行い、より理解を深める。	10	
1 ～ 3	復習	24	重要問題集	全範囲を復習するために問題演習を行い、より理解を深める。習熟度に応じて発展的な内容にも取り組む。	24	

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

授業進度に合わせて週末課題を課します。きちんと取り組んで提出をし、内容理解に努めること。
また、自主的に既習内容の復習に取り組みましょう。

8 担当者からの一言

理科の学習はとにかく問題演習を積むことにあります。各現象を頭の中でイメージしながら、教科書と問題集の例題・重要問題集の④問題を繰り返し解いて理解を深めましょう。
(担当：金安 奨太郎)

教科	理数	科目	理数生物	単位数	4	学年（コース）	3 学年（情報科学科）
使用教科書	・数研出版『生物』						
副教材等	・数研出版『リードα生物』 ・浜島書店『ニューステージ新生物図表』 ・数研出版『改訂版大学入学共通テスト対策チェック&演習生物』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学探究するために必要な資質・能力を育成する。

3 指導の重点

生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするとともに、科学的に探究する力を養う。

生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとしている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	第5章 動物の反応と調節	動物の反 応と行動 (38 時間)	教科書 副教材	・刺激の受容 ・ニューロンとその興奮	12	学習到達度確認 問題
5				・情報の統合	12	提出物の確認
6				・刺激への反応 ・動物の行動	14	中間考査
7	第6章 植物の環境応答	植物の環 境応答 (34 時間)		・植物の生活とホルモン ・発芽の調節	12	学習到達度確認 問題
8				・成長の調節	10	提出物の確認
9				・器官の分化と花芽形成の調節 ・環境の変化に対する応答 ・配偶子形成と受精	12	期末考査
10	第7章 生物群集の生態系	生物群集 と生態系 (38 時間)		・個体群の構造と性質 ・個体群内の個体間の関係	14	学習到達度確認 問題
11				・異なる種の個体群間の関係	12	提出物の確認
12				・生態系の物質生産と物質循環 ・生態系と人間生活	12	中間考査
1	生物	総合的な 内容 (18 時間)		・生物の各単元における総合的な内容	10	学習到達度確認 問題
2					8	提出物の確認

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

週末課題、長期休業課題、実験レポート、授業ノートやプリント、ワークシートの提出を課します。(別途指示します。)

8 担当者からの一言

①授業内での理解を目指しましょう。

授業の前にあらかじめ教科書を読み、分りにくい部分や疑問点を探しましょう。授業でとるノートは、授業の内容を思い出し、定着させるためにとるものと認識してください。つまり、授業中に生じた疑問や解説も書くようにしましょう。多くの生物用語が出てきますが、その意味を理解し、適切に使えるようにしましょう。実際にいる身近な生き物や様々な生命現象を、学んだ知識と関連付けて理解するように学習しましょう。各種課題の作成においては、自ら関心をもって調べるなど、積極的に取り組みましょう。

②家庭学習は復習を中心に取り組みましょう。

家庭学習では、問題集を中心に、授業で取り組んだ内容を復習しましょう。授業で身につけた知識を定着させるように継続して取り組みましょう。また、応用問題にも取り組みながら、より深い理解と実践力をつけていきましょう。学習到達度確認問題や、定期考査で確認を行い、適宜、学習活動をリフレクションしながら学力向上に努めましょう。

③生物に関心を持ちましょう。

生物に関心を持つという観点から、授業では、現在行われている研究や最先端の生物学の話も展開する予定です。興味を持っている分野があったら、積極的に調べてみてください。(担当：川上)

教科	英語	科目	総合英語Ⅲ	単位数	5単位	学年（コース）	3学年 国際文化科
使用教科書	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅢ』						
副教材等	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅢ WORKBOOK』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点をもち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

3 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。 ① 必要な情報を話の展開に注意しながら正確に聞き取り、話し手の意図を把握したり、幅広い視点から概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。 ② 必要な情報を文章の展開に注意しながら正確に読み取り、書き手の意図を把握したり、幅広い視点から概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。 ③ 多様な語句や文を効果的に用いて、情報や考え、課題の解決策などを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝え合うこと。 ④ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝えること。 ⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを幅広い視点から論理的に詳しく話して伝えること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を目的や場面、状況などに応じて効果的に活用できる技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、意図などを正確に理解し、理解したことを基に幅広い視点から論理的に表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・学習に意欲的に取り組んでいる。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Unit1 What thinking and study habits can help us succeed?		・オンライン科学雑誌の記事 ・ポッドキャストのインタビュー ・ウェブの記事	・方法を読み取る／聞き取る ・悩みと助言を読み取る	18	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート
5	Unit2 How can we use AI to improve education?		・大学のウェブサイトの記事 ・インタビュー動画 ・文学（SF短編）	・時系列と過程を読み取る ・仕組みと要点を聞き取る ・物語の背景と含意を読み取る	18	・提出物 ・小テスト
6	Unit3 What do folktales tell us about human values?		・ウェブの記事 ・物語とディスカッション ・物語	・要点を読み取る ・物語の流れと教訓を聞き取る／読み取る	18	
7	Unit4 What items would you place in a time capsule?		・ウェブのニュース記事 ・ディスカッション ・ウェブの記事	・詳しい特徴や描写を読み取る ・選択と結論を聞き取る ・複数の視点の報道を読み取る	18	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート
8	Unit5 What are the rewards and challenges of living in a different culture?		・本のショッピングサイト ・ポッドキャストのインタビュー ・大学のブログの記事	・本の情報を読み取る、抜粋を読む ・経験を聞き取る ・一般論と個別の体験を読み取る	10	・提出物 ・小テスト
9	Unit6 How can art be made accessible to all?		・イベントの紹介記事 ・美術館のオーディオガイド ・ウェブの記事	・特徴を読み取る ・詳しい描写を聞き取る ・専門的な説明を読み取る	18	
10	Unit7 How can we preserve life below water?		・環境保全団体のウェブサイトの記事 ・説明の動画 ・英字新聞の記事	・経緯と因果関係を読み取る ・背景知識を活用して聞き取る ・問題と解決策を読み取る	18	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート

11	Unit8 Is there anything money can't buy?		・スポーツに関するウェブサイトの記事 ・ディスカッション ・音声ニュースの原稿	・主張とその根拠や具体例を読み取る ・話し合いの帰結を聞き取る ・異なる立場の主張を読み取る	1 8	・提出物 ・小テスト
12	Reading Enrichment1		・物語	・架空の世界を想像して読む	2 4	・提出物
1	Nineteen Eighty-Four			・書き手の意図を考えながら読む		・振り返りシート
2	Reading Enrichment2					
3	Dead Men's Path					

計 160 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期的に小テストがあります。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考查毎にワークの提出、振り返りシートの記入、パフォーマンステストがあります。

8 担当者からの一言

予習＋授業＋復習 → テスト → 振り返り → 改善 → → → 英語力アップ

「継続は力なり」ではありますが、上のサイクルに自分なりの楽しみ（プラスα）を加えてほしいです。これまでの経験を活かして、自主的、積極的な姿勢で臨みましょう。

教科	英語	科目	エッセイライティングⅠ	単位数	2単位	学年（コース）	3学年 国際文化科
使用教科書	新興出版社啓林館『Vision Quest English Logic and ExpressionⅢ』						
副教材等	リクルート『スタディサプリ 英語4技能コース』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点をもち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域（話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動を通して、英語を用いて主体的、自律的にコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。
--

3 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。 ① ディスカッションやディベートなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと。 ② 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えること。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身に付けている。 ・情報や考えなどを効果的に伝える多様な表現を理解し身に付けている。	・情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを適切な英語で論理的に表現したり伝え合ったりすることができる。	・自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、論理の構成や展開を工夫して表現し、詳しく伝えようとしている。 ・学習に意欲的に取り組んでいる。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返りシート ・授業中の活動への取り組み状況 などから評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	L1 Friendship and improvement		相談メール	助言を与える	8	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート ・提出物 ・小テスト
5	L2 Which is better, a paper or an electronic dictionary?		書店での商品説明	譲歩 長所短所を指摘する	8	
6	L3 Can you change your personality?		新聞の悩み相談コラム	関係を述べる	8	
7	L4 How do we make decisions?		講義	判断の根拠	8	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート ・提出物 ・小テスト
8	L5 Online doctor consultations		ウェブサイト	代替 比較する	4	
9	L6 Healthy lifestyle		友達同士の会話	結果	8	
10	L7 What do you do after school?		メール交換	物事への正負の影響	8	・定期考査 ・パフォーマンステスト ・振り返りシート ・提出物 ・小テスト
11	L8 Direct and indirect ways of communication		オンライン講義	差異を考える	8	
12	L9 Should we use social media?		記事	類似	4	
1	L10 Are you a good user of social media?		講義	理由		・提出物 ・振り返りシート

計 64 時間（55 分授業）

7 課題・提出物等

・エッセイの提出があります。 ・考査毎に振り返りシートの記入、パフォーマンステストがあります。

8 担当者からの一言

複数段落の文章を英語で書いたり、ディベートを行ったりします。主体的かつ積極的に授業に参加しよう。

教科	国際文化	科目	グローバルスタディーズⅡ	単位数	8単位	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用準教科書	Cambridge University Press, 『Academic Encounters 2 Reading/Writing 2 nd Edition』						
副教材等	Cambridge University Press 『Academic Encounters 2 Listening/Speaking 2 nd Edition』						

1 学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるとともに、論理的・批判的思考力を養う。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを理解したり、表現し伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・テキスト以外の様々な研究分野に触れ、リベラルアーツとして包括的に学習することを目指します。
- ・コモンアプリケーションや各大学への出願手続きを通して、高次の英語運用能力を育てます。
- ・出願資料の1つであるエッセーを通して、自分自身を英語で表現する力を育てます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。身の回りにある課題について、他者と協働して解決しようとしている。	身の回りにある課題を見いだし、プレゼンテーション、ディベートやディスカッション、エッセーライティングを通して、情報や自己の考えを整理し場面に応じて表現しようとしている。	言語やその運用についての知識を身につけ相手が伝えようとする事柄を的確に理解し、質問しようとしている。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・プレゼンテーション ・エッセーライティング などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・小テストへの取り組み ・ふりかえりシート などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

授業内容に関連するプレゼンテーションの作成やエッセーライティングなど。

6 学習アドバイス

1. 大学調べ、エッセーライティングを通して、進路と自己を探究しましょう。
2. 膨大な情報の中から自分にとって必要な情報を取捨選択できるように、自分の軸をしっかりと持ちましょう。
3. 世界で起きている様々な出来事だけでなく、日本のことについてもニュースを見たり本を読んだりして知識を深めましょう。

7 学習計画

月	単元	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	1. 春休み課題の確認 2. コース・オリエンテーション 3. My Identity Card 作成	24	リベラル・アーツ (分野を問わず、様々な科目の講義を受けて英語でアウトプット活動を行う)	・コース概要を説明し、目標を確認する。 ・自己探究の一環として、「My Identity Card」を作成し、発表を行う。 ・様々な時事問題について動画を視聴したり記事を読んだりして、問題点について議論する。 ・音楽、歴史、自然科学などの分野について先生方から講義を受ける。また、そこから学んだことについて英語でエッセーにまとめる。またはプレゼンテーションを作成する。 ・コモンアプリケーションの準備作業を始める。 ・Ted Talk からプレゼンテーションに必要なスキルを学び応用する。 ・先輩の Ted Talk から学ぶ。 ・My Ted Talk を作成し、発表する。
5	『Academic Encounter』 1. The Foundation of Government	26		
6	2. Constitutional Issues Today 「自分史」	30		
7	3. The Origins of Diversity	24		
9	4. Diversity in the US Today	24	高次の英語スピーキング・ライティング	・テキストから学んだ内容についてエッセーを書く。 「Contrasting Attitudes Toward Diversity」 ・テキストから学んだ内容について考察し、プレゼンテーションを行う。 「American Values」 ・コモンアプリケーションのトピックから1つ選びコア・エッセーを書く。 ・出願したい大学の論題に合わせてエッセーを書く。
10	5. The Struggle Begins	28		
11	6. The Struggle Continues	30		
12	7. American Values of the Past	24		
1	8. American Values Today	20		
2	海外大学へのブリッジプログラム	20	ミニ・レクチャー	探究したいテーマのミニレクチャー（生徒が先生になって授業を準備する）を行う。
3		6		

計 256 時間 (55 分授業)

教科	国際文化	科目	国際理解	単位数	4単位	学年（コース）	3学年（国際文化科）
使用教科書	・「詳述倫理」（実教出版） ・「詳説世界史探究」（山川出版社）						
副教材等	・「政治・経済」（数研出版） ・その他、プリント・既習の科目の教科書・資料集など必要に応じて使用						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び論理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 (2) 現代の諸課題について、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国民主権を担う公民として、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことに大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

1 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させ、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。 2 日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手がかりとなる概念や理論について理解している。	・福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明、論述している。	・現代の諸課題と人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	・現代社会を俯瞰する ・現代に生きる自己の課題	・国際政治・国際経済 ・青年期の課題と自己形成 (10時間)	「詳述倫理」 (実教出版)、「詳説世界史探究」 (山川出版社)、「政治・経済」 (数研出版)	政治経済分野の復習（特に国際分野）を通して、現代を広く見る。 「人間とは何か」をテーマに自己理解を進める。	10	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト
5	・人間としての自覚と生き方 ・人倫・ヒューマニズムの源流と現代国際社会における人権保障	・ギリシア哲学 ・世界三大宗教 ・人生の知恵 ・国際的人権の保障 (13時間)		哲学の誕生と「幸福」について倫理学の側面から考察する。 宗教と人々の生活との関わりを学ぶ。 古代中国の知恵から現代を考察する。 現在国際社会で行われている行為の多くが、この時期の思想を前提としていることを理解する。	13	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト
6	・現代の社会と倫理 ・産業革命以降の経済と科学技術の関係	・人間の尊厳 ・自然や科学技術と人間とのかかわり ・民主社会における人間のあり方 (15時間)		人間とは何か。現代の自然科学や政治社会がいかにして形作られてきたのか。その思想的背景について理解を深める。特に民主主義という思想がどのようなことを背景に成立した思想であるか、どのように国際社会において標準的思想の一つとなったのかを理解する。	15	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト 定期考査
7 8	・現代の社会と倫理 ・国際経済と西洋近代思想	・自己実現と幸福 ・個人と社会との関わり ・現代における理性の問題		西洋近現代の思想について特徴とともに理解し、現代を生きるに当たって健全な批判精神を培う。ここで培った考えを使い、現在の国際社会に存在する西洋近現代的思想を批判的に考え、具体的経済	15	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト

		・社会的公正を目指す思想と国際経済の問題 (15 時間)		事例をあげ、格差と公平についての考察を深める。		
9	・国際社会に生きる ・国際社会の中の日本人のアイデンティティ	・日本の風土と伝統 ・仏教の伝来と隆盛 ・儒教の日本化 (15 時間)		日本の伝統的な思想について触れ、現代の日本の根幹をなすものを理解する。その伝統と国際社会の間で起こる問題を考察する。	15	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト 定期考査
10	・国際社会に生きる 日本人の自覚	・日本文化と国学 ・近世庶民の思想 ・西洋近代思想の受容 (12 時間)		日本の風土と伝統と、外来思想受容の過程を学び、日本人とは何かを考察し、現代の日本について考える一助とする。また、国際社会での日本的思想・日本文化の位置づけを改めて考察する。	12	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト
11	・現代の諸課題と倫理現代に生きる私たちの課題	・課題研究につなげるため、具体的問題をあげる。 (12 時間)		生命・環境・家族・地域社会・情報社会・グローバル化・福祉と平和など現代の私たち自身の問題をテーマに、これまでの知識・既習の教科・科目を総動員して考察する。	12	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト 定期考査
12	課題研究 1	・課題研究の課題を設定する。 (12 時間)		上記の内容から解決すべき課題を設定する。とりわけ、国際社会に対する課題とそれに関わる取り組み・解決策等について考察する。	12	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト
1	課題研究 2	・設定課題に関する中間発表を行う。 (12 時間)		上記の課題に対する考察を発表することにより、さらに考察や解決策・新たな課題を設定する。さらに自らが主体となった場合について具体的に考察する。	12	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト
2 3	課題研究 3	・最終的な考察を表現する。(12 時間)		上記の課題の解決策・考察等の発表を通じて得た批評から、最終的な解決策等を発表や文章の形で示す。	12	授業態度 発問評価 学習到達度 確認テスト

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・毎月、学習到達度確認テストを行います。範囲等はテスト前に提示します。
- ・週末課題を課します。長期休業中の課題等は別途指示します。課題は単にこなすだけの「作業」に終わらず、学習内容の定着を目指して行いましょう。

8 担当者からの一言

- この教科では予習より復習を重視する。授業後すぐに、ノートの見直しや教科書・資料集による復習を行うと効果的である。それによって、現在生じている国際社会での問題を的確に捉え、課題解決の具体的方法を考察することへつながっていく。
- 新聞やニュースは現代社会で扱う事項の宝庫である。日々起こっている出来事に興味をもち、その背景を考えてみるのが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
(担当：清水 仁)

教科	国際文化	科目	国際地域文化研究	単位数	4単位	学年（科）	3学年（国際文化科）
使用準教科書	山川出版社『詳説世界史探究』『詳説日本史探究』、帝国書院『新詳地理探究』『新詳高等地図』						
副教材等	第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』						

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成する。 ① 進取の精神で自らの資質・能力を伸ばす挑戦を惜しまず、国際・情報社会で活躍できる心身ともに健康な人間 ② 他者への敬意と思いやりを持ち、論理的に考え、日本語でも英語でも積極的にコミュニケーションを取ることができる力 ③ グローバルな視点を持ち将来を描く力と、ふる里としての地域を愛する思いを持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を認識し、解決しようとする力
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。 ① 基礎・基本的学力を養う共通科目と、特色ある専門科目を配置し、一人一人の目標に向けた進路実現の機会の提供 ② コミュニケーション力や、協働して課題解決に向かう力を育成するため、総合的な探究の時間を軸として教科横断的な学びを展開するとともに、きめ細かな学習指導を行うために、学習到達度確認問題や課外講習、少人数授業の実施 ③ グローバルな感覚を育成するため、海外研修や短期留学生の受け入れなどを実施

2 学習目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 日本と欧米の歴史における諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

(2) 日本と欧米の歴史における諸事象の意味や特色などを、時期や年代などに着目して、多面的に考察したり、歴史の中における諸課題を把握し解決を視野に入れて構想する力やそれらを基に議論する力を養う。

(3) 日本と欧米の歴史における諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、深い理解を通して涵養された日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

① 世界の諸事象の歴史的な背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりに着目し、主題を設定し、資料を比較・関連付けることにより読み解き、諸国家の社会や文化の特色などを多面的・多角的に発展的に考察し、表現させることを目指します。

② 授業等で歴史事象に関する基礎的知識を基礎にした発展的知識の定着を図ります。また、授業の中で得た歴史的思考力、判断力を今の時代を生きる者として、世界の様々な事象に対する問題意識を想起し、探究すべきテーマを設定し考察を深めるとともに、演習問題等でさらに認識の幅を広げることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に発展的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れた構想したりする力や、それらを説明したり、議論したりする力をよりよく身に付けている	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に発展的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題（課題研究） などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題 ・課題レポート などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

6 学習計画

月	単元等	授業時数と領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4月	アジア諸地域の風土と文化	1 2 アジア諸地域の風土と文化①	・アラブ世界の近代化とイスラーム教、アラブ文化の復興運動について理解する。 ・南アジアの宗教・民族・風土や、この地域の植民地化と地域文化への影響について理解する。	1 2	学習到達度確認テスト 作業プリント ・ワークの確認
5月		1 2 アジア諸地域の風土と文化②	・東アジアの民族、風土やその激動の歴史について理解する。	1 2	学習到達度確認テスト 前期中間考査
6月	欧米諸地域の、風土や民族・宗教・文化	1 5 アジアの文化と西洋文化の相互影響	・アジアの文化と西洋文化が相互に与えた影響を探究する。	1 5	学習到達度確認テスト 作業プリント ・ワークの確認
7月 8月		1 5 帝国主義と世紀末市民文化	・帝国主義とアジア諸地域文化の関係について、諸地域の文化的特徴に考慮して理解する。	1 5	学習到達度確認テスト 作業プリント ・ワークの確認
9月	地球規模で一体化する世界	1 5 アジア諸国の改革と民族運動	・2つの世界大戦を経て世界が一体化する過程を、地球規模の視点で理解する。	1 5	学習到達度確認テスト 前期期末考査
10月 11月		1 5 第一次世界大戦とロシア革命	・2つの世界大戦を経て世界が一体化する過程を、地球規模の視点で理解する。	1 5	学習到達度確認テスト 作業プリント

					・ワークの確認
		1 5 第二次世界大戦とアジアの民族運動	・文化・生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、世界に対する多角的で柔軟な見方を養う。	1 5	学習到達度確認テスト 後期中間考査
12 月 1 月	現代世界の特質	1 4 東西対立の始まりとアジア諸地域の自立	・冷戦下の国際問題を、文化相互の協調の意義を考慮しながら理解する。	1 4	学習到達度確認テスト 作業プリント ・ワークの確認
2 月 3 月		9 冷戦の解消と世界の多極化と地域文化への影響	・科学技術と現代文明・文化の観点から、現代の歴史の特質を考察する。	9	学習到達度確認テスト 後期期末考査
		6 課題研究	・上記の内容から解決すべき課題を設定し、それについて考察を深める。	6	学習到達度確認テスト 作業プリント ・ワークの確認

計 128 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・定期考査とは別に、授業内容に関連する週末課題や長期休業中の課題（課題レポート）など。

8 担当者からの一言

- ・授業を大切に。授業では、教科書に記載されていない重要な事項や時事的な問題も扱う予定です。授業で考察すべき問題を把握すること。
- ・復習重視の科目です。授業後すぐにノート・プリントの見直しや副教材等を使った復習を行うと効果的です。そのためには何よりも授業への集中が大前提となります。
- ・時代の流れの“縦軸”と、同じ時代の各国・地域どうしのつながりである“横軸”を結びつけて考えつつ、学習していきましょう。
- ・世界の時事問題に興味をもち、その背景を考えることが、授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。日々のニュースや新聞を読むことを心がけよう。

地歴公民科：山崎 剛志